

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770105738		
法人名	社会福祉法人 大阪福祉会		
事業所名	ハビネス陵南グループホーム さくらユニット		
所在地	堺市北区百舌鳥陵南町2丁662番		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770105738&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内に閉じこもるのではなく、外へ積極的に出て行き、四季の移り変わりを肌で感じて頂けるよう、遠足や農園、四季折々の花見学にでかけている。また、ホーム内でも、お正月、端午の節句、ひな祭り、お彼岸、夏祭り、納涼祭、冬至、ハロウィン、クリスマス、など、古くからある又は新しい習慣や季節を忘れないように年中行事を入居様に教えて頂き、企画をたて、一緒に楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が季節ごとに利用者の楽しめる事を企画し、カラオケ大会やおやつバイキングなど一緒に楽しまれ、お誕生日の利用者はその日にお祝いするなど、利用者の楽しみを支援しています。また地域との関係も良く、日々の挨拶はもちろんのこと、多くの地域行事に参加したり、子供達との交流も行っています。また毎日の散歩も欠かさず行かれ、季節を肌で感じ、五感刺激やストレス解消にもなっています。センター方式の一部を導入することにより、利用者の細かい点まで把握することができ、職員の気づきやアイデアがアセスメントに反映され、個々の関わり方が変わってきています。ホームではほとんどの職員が常勤雇用で離職もなく、利用者の尊厳を守り、プライバシーを大切にされた対応を徹底し、職員同士が協力し合って利用者のケアにあたっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をつくり、リビングや玄関にかかげている。スタッフ会議で繰り返し啓発し、各リビングに掲げている。また、毎日申し送り時に共有できる機会を設けるようにしている。	理念は職員間で話し合い作り上げ、リビングや玄関に掲げています。地域の中で愛されるホームを目指し理念と共に職員心得も作り上げています。毎日の申し送りで共有し、毎月開催される会議の中でも振り返り確認を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日近隣に散歩にでかけ、道で出会うと挨拶を交わしている。また、お花を頂戴することもある。買い物にでかけ店員と話をしている。近所の方がお手洗いのために立ち寄られたり、お茶を飲みにこられることもある。布団太鼓見学。北区地域交流祭りに参加。2ヶ月1度保育園との交流。小学校へ運動会見学。中学生の職場体験受け入れなどを行っている。尚、法人経営の保育園の行事には順次訪問している。	毎日の散歩の中で近隣の方と顔なじみの関係ができています。小、中学校の体験学習を受入れたり、運動会に参加するなどの交流を図っています。また地域の保育園や法人の幼稚園と交流しています。民生委員等から情報を得て、区のお祭りや布団太鼓の見学に出かけています。踊りや歌などのボランティアの受け入れも行っていません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	陵南では現在行ってないが、本部で「高齢者おたっしや教室」を毎月開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の事業所での事例等を参考に意見交換をしたり、都度選定した利用者についての情報を共有しサービス向上に繋げて	運営推進会議は2ヶ月に一度、利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター職員、地域のケアマネージャー、職員等が参加して開催されています。会議ではホームからの様々な報告がなされる他、利用者自身の意見を直接聞いたり、参加者から地域の情報や助言を得るなどして、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと他グループホームとの交流の場に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当と連携もよく、研修の情報を得たり相談に訪れるなど、連絡を密にとっています。区のグループホーム会議に堺市の担当者も積極的に参加され、協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議や研修会で人権について話し合いをし、身体拘束について理解を深めている。玄関、自室には鍵をかけていない。	身体拘束については会議や研修で確認し合い、理解を深めています。玄関は鍵をかけていませんが、エレベーターはロックしており、家族にも説明し同意を得ています。利用者が外に出たい時には職員が同行するなど、いつでも対応できる体制になっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議にて話し合いをしたり、法人内研修にて人権について、研修会を行っている。		

ハピネス陵南グループホーム(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	北区グループホーム連絡会にて勉強会として、包括の方から、「成年後見制度」について講義して頂いた。市が主催している講義に参加する機会を持ち、参加者はスタッフ会議にて研修を行った。現在成年後見制度を活用しているかたがいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の手続きまでの期間を十分に持ち、理解し納得して頂けるまで説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームを利用している中で意見、要望はその都度聴いている。利用者からの話しはゆっくり聴くようにし、出来る事から改善している。また、年に一度はアンケート形式で苦情や意見を聴く為、無記名のアンケートを送り意見や要望を書いて返送して頂いている。その内容については全員に対し出来ることと出来ない事はなぜできないか、又、実施には日数がかかる物はいつ頃まで待つて欲しいかを回答している。	運営推進会議に利用者が参加したり、日々の生活の中で利用者の意見 要望に傾聴しています。家族会の前には無記名アンケートを出し意見、要望を聞き 家族会開催時に報告しています。また内外の苦情機関を書面に掲載し、利用者や家族の意見を運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて 意見を聞き検討している。日頃のスタッフとの会話の中で聴き出すようにしている。年に何回か個人面談を行い全員の中で言い難い事を聴く機会を作っている。	毎月1回スタッフ会議が開催され、全職員が参加し意見交換しています。その後は、各ユニットに分かれ現場の意見をまとめ、管理者に報告しています。職員の離職は無く、法人による年に2回の個人面談や職員の希望を聞いてシフト調整するなど離職を防ぐ取り組みがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内にて入居者との交流を図りながら、スタッフの勤務状況を把握し、また、スタッフ会議には出席し、スタッフからの意見や要望をその方向で聴き、指導や助言を行いその意見に自信と責任を持って行動できるようにはからっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決め施設内研修や法人内研修を行っている。外部より講師を招き研修している。外部研修については順次行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区グループホーム連絡会に毎月管理者が出席し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用する前にご本人、家族様と話しをし、ホームでの生活の流れを説明し不安なく過ごして頂けるよにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用する前に施設生活の流れを充分説明し、家族様の不安な事や疑問に思っている事をお聞きし答えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本部の在宅介護支援センターと連携を取る体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意事(裁縫や調理、掃除など)をスタッフが教えて頂き一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と一緒にご本人にとってどうサポートとしたりいいか考えケア行っている。ホームの行事に家族様も参加して頂き一緒に楽しい一時を過ごして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方にも面会に来て頂いている。写真や馴染みのものを用いて回想法を行って。	自宅近くの公園など利用者の思い出の場所に出かけたり、馴染みの美容室を利用するなど、大切なこと思い出してもらおう支援をしています。近所の人に訪ねてもらおうなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り孤立しない様に努めている。9人全員でゲームや外出している。家庭的な雰囲気を作っている。		

ハピネス陵南グループホーム(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退居される方に対し、病院の相談員と連絡し退居時に不安感をあたえないようにしている。尚その後の相談事や再入居については本部の介護支援センターでアフターフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの想いを傾聴するように努めている。家族面会時の何気ない会話から希望、意向を見出せる様に努めている。	日々の生活の中で本人から直接意向や思いを聞くように努め把握しています。、困難な場合は家族からの聞いたり行動の中から探るなど一人ひとりの思いや暮らしの希望などを把握しています。情報はセンター方式の一部使用し、職員間で情報を共有しながらよりよいケアを心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを作成し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、ケアプランの中でとり入れ活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスではケアマネや計画作成者以外にも現場のスタッフが出席し意見交換を行っている。また、家族の面会時に本人について話すことを心掛けている。 計画期間外でも、見直すべき課題が生じた場合においては、必要に応じてカンファレンスを開催している。	介護計画は、担当者を中心に意見を聞き、計画に対しホーム独自のチェック表を作成し3ヶ月に1度モニタリングを行い、評価し見直しています。状態が変化したときはその都度見直しています。ケア担当職員から、家族に対し利用者の事を話すよう心がけ、職員と計画担当責任者、関係者などと意見交換して介護計画の作成に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアに関わる全てのスタッフが記録物に目を通すことを徹底し統一したケアが出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭浴槽が困難な方に対しデイサービスの機械浴にて入浴している。デイサービスにてレクリエーションに参加している。身体的、経済的、要望については本部の特養と連携し柔軟な対応を行っている。		

ハピネス陵南グループホーム(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアさんに来て頂き踊りや唄などを披露して頂き楽しい一時を過ごして頂いている。区民祭りや学校行事に参加している。民生委員の方には、地域の行事などの連絡を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じてかかりつけ医と連絡をとっている。	現在はホームの協力医に全員受診していますが、希望に応じて変更も可能です。協力医による往診が毎週有り、24時間連絡可能です。また、訪問看護を週に1回受け日々の健康管理にあたっています。必要に応じて歯科や皮膚科に受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部の診療所と連携をとり、日常の健康管理をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へお見舞いにいたり、病院の相談員や医師、看護師より状態をお聞きし、家族にもはいつて頂き、一緒に早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在対象者はいないが、入居時に『医療連携体制並びにターミナルケア』について説明し同意を得、かかりつけ医と連携をとる体制になっている。家族様には状態に変化が生じた時に随時報告を行い一緒に考えている。御家族様と相談した上で必要に応じてかかりつけ医や本部の応援も得て相談し検討している。	今まで、対象者はいませんが入居時に家族にホームの方針を説明し、書面にて同意を交わしています。職員間でも方針を共有し、医療的な研修も行いスキルアップに努めています。時期が来れば協力医から家族への説明頂き、ホームでできることを話し合いながら支援することを考えています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修にて医師や看護師より指導して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による、避難訓練を行っている。スタッフ会議や朝のミーティングで確認している。	消防署指導の避難訓練は年1回実施し、ホーム独自でも、月に1回利用者参加で夜間を想定して避難訓練を実施しています。運営推進会議でも報告し、参加者に協力を呼びかけています。	地域の方の参加を得て避難訓練を行うなど、協力体制が徐々に築かれていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物は鍵のかかる所で保管している。食べこぼしや失禁などで衣服が汚れた時などさりげない行動をするとともにプライドを傷つけないように声かけに配慮している。	一人ひとりに合わせた声かけを心がけ、傾聴など人格を尊重した対応を行っています。また、会議や研修等においても言葉使いは徹底しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人の意向を聞き、自己表現が難しい方であっても、気持ちをくみ取るように心掛けている。チラシを見て「これが食べたい」と言われた時には同じようなものを作ったり、買い物に出かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望により、自由に過ごしておられる。塗り絵・折り紙・歌・将棋・園芸など楽しまれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔・ブラッシング・更衣・髭そり(男性毎日)を本人の意思を確認しながら支援している。月一回理髪店の方が来てくださり、好みの髪型にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に好みの物を一緒に作っている。又、日常的には一人一人の出来る事を把握しその方にあつた事を一緒に行っている。	食材業者の献立に沿って食材が届きますが、希望によっては献立を変更し、一緒に買物に出かけることもあります。毎月行事の際に行事食として利用者の希望を取り入れた献立を立て、利用者と職員が一緒に準備したり調理、片付けしています。職員は利用者が出来る事に携わってもらったり、また、味付けをみてもらうなど共に楽しみながら食事の時間を過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	やや少なめ、やや多めといったように、その方に適した量を提供している。お茶が苦手な方、水分量が少ない方に対しては、その方が好む飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し介助している。就寝の際義歯をはずし寝るよう促し確認している。定期的な歯科往診。		

ハピネス陵南グループホーム(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ誘導行うことで、パットの使用は最小限にしている。	さりげない声かけ誘導を行い、排泄パターンを把握し、夜間もトイレ誘導を行っています。日中はおむつは使わない支援を心がけ、入居後におむつ使用がなくなった利用者もいて、トイレでの排泄に向けた支援を行っています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩や体操をし出来るだけ身体を動かす機会をつくっている。食事面では野菜を多くしたり、野菜ジュースやヨーグルトも積極的に摂っていただき便秘にならない様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その中で好きな時間帯に入浴して頂いている。湯温や入浴にかかる時間なども好みに合わせている	週に3日、曜日を決めて個々のパターンに合わせて、1番風呂など好きな時間帯に入浴してもらっています。希望があれば毎日の入浴や夜の対応も検討する予定です。刺激の少ないシャンプーを使用し、ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じてもらっています。更衣など、出来ることは促すように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、就寝時間は個々それぞれ自由である。畳部屋対応の居室がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイルし、定期的に確認するようにしている。新しい薬が出たときは看護師の指導のもと、スタッフが確認し、内容を理解できるように努めている。外部の薬は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの情報シートを活用して、家族やスタッフで入居者一人一人の好きなことや楽しみにしていることを把握し支援を行っている。 本人の話を傾聴したり家族との対応の中からの情報も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事以外にはがきを出したい、衣類を買いたいなど個人のニーズを把握し散歩や買い物出来る限り希望に添うように努めている。また、ご家族へ協力を求め実施している。	毎日の日課として散歩に出かけ、個別でもおやつ、衣類の購入など近くのスーパーに買い物の支援をしています。ユニット毎の行事として花見に出かけ外食したり、法人の農園へみかん狩りやイモ掘りに出かけています。	

ハピネス陵南グループホーム(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のもの出来る限りスタッフ同行にて買い物に行って頂き欲しいものを選びお金を払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する方にはスタッフが電話し、本人にお話して頂いている。手紙をポストまで一緒に出しにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を生け、毎月手作りのカレンダーを作成、掲示し季節を感じて頂いている。旬の食材を買いにいき調理している。入居者の手作りのものを置くなどし、家庭的な雰囲気が出せるように環境作りをしている。	共用空間には 季節を感じる事ができるようにと花を飾り、利用者との共同作品であるカレンダーや貼り絵、折り紙など利用者の作品が掲示されています。入り口にベンチを設けたり、リビングにソファを置くなど利用者は好きな場所でゆったりと過ごすことが出来ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で自室や玄関ベンチに座り過ごされている。リビングやその方のお部屋へ行き談話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、使い慣れた物や好みの物、慣れ親しんだ物、家族の写真などを持ってきて頂き、これまでご本人が過ごされてきた環境とより近い空間作りを工夫している。	居室は和室と洋室があり、トイレが付いている部屋もあり、各居室に洗面台とクローゼット、ベッドが用意されています。入居時に、今まで使用し馴染み深い食器 思い出のミシン、筆筒など持ってきて頂き、これまで、過ごされた環境により近い空間を演出し、居心地よく過ごされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やお風呂場、トイレには手すりがあり、バリアフリーになっているので車椅子の方でも自由に動ける。 自室には手作りの表札をしている。トイレやお風呂場には表札をしている。		